

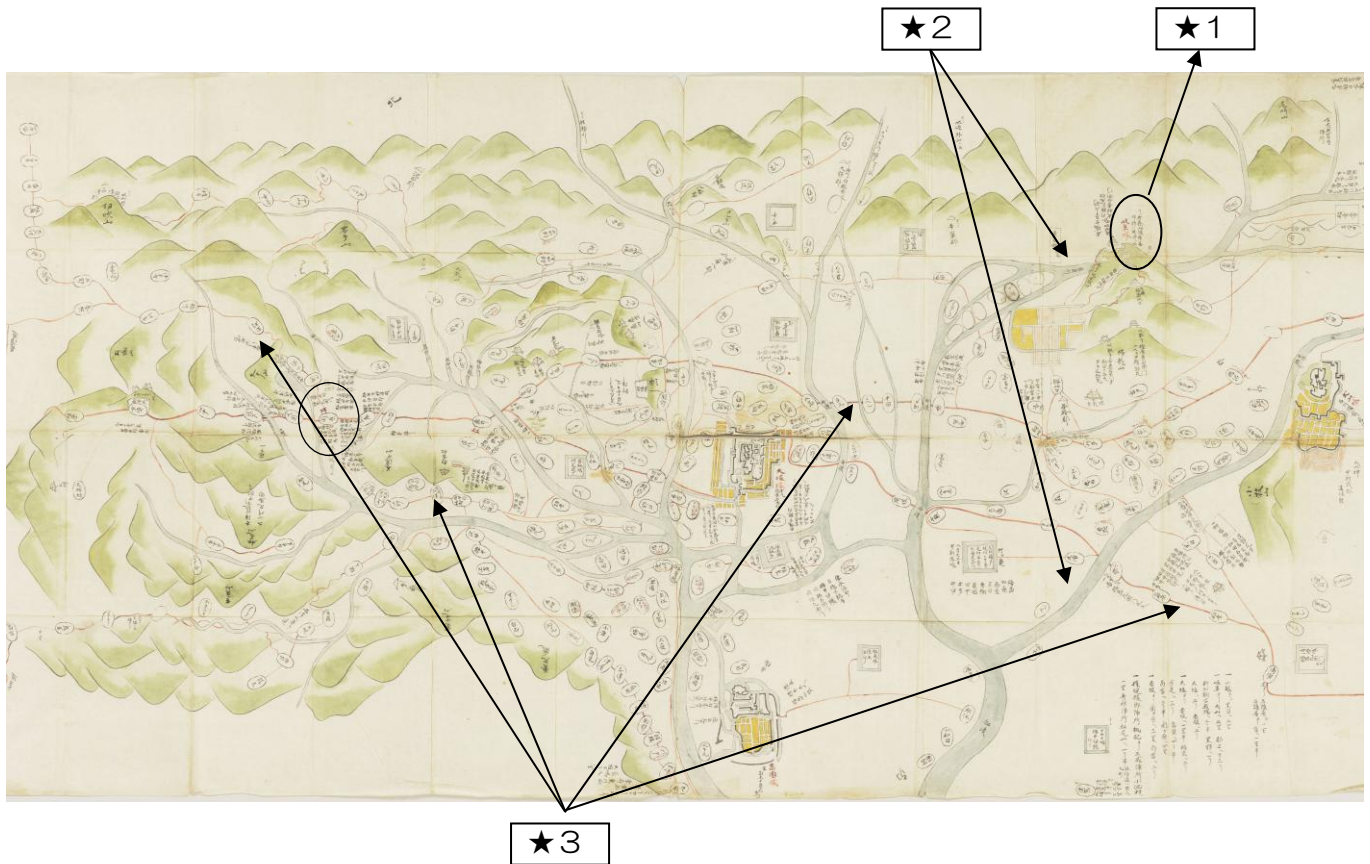
『授業で使える当館所蔵地図』

No. 93 『濃州 関ヶ原合戦図』

作成年：江戸期

サイズ：82×165 cm

作者：不詳



【解説】

この地図は江戸期に作成された『関ヶ原合戦図』である。関ヶ原の戦いは、1600年に豊臣秀吉亡き後、徳川家康が政権掌握を目指しおこった合戦である。この図は、大垣城を中心に描かれたもので、関ヶ原周辺だけでなく岐阜城や犬山城も描かれている。この古地図には、関ヶ原の戦い開戦直前の布陣が書かれている。また、美濃には不破の関があり、東国への入り口として知られている。都の京から近く、中山道が東西にはしっている。また北国街道が北へ、伊勢街道が南へ分岐している。岐阜からは岐阜街道で名古屋まで続き、近くには東海道もある。また、岐阜城の北側を長良川・南側を木曽川が流れており、伊勢湾や奥美濃からの物流の拠点となった。

この地図は関ヶ原の戦いを学ぶにあたり大変参考になる。ただ、それだけでなく、陸上交通や河川交通といった地理的な視点で見てもとても興味深い。美濃が人や物資の集積する結節点となり、戦国の争乱期から関ヶ原の戦いに至るまで特に交通の要地であり、大名にとっては戦略的要地であった点がわかる。

★1

「斎藤山城守居住ノ時ハ井ノロト云」と書かれている。この「斎藤山城守」は斎藤道三をさしていると考えられる。

斎藤山城守道三とは、美濃国の戦国大名である。本名は斎藤利政で、最終的に主君であった土岐氏を追放し、実質的に美濃の支配者となった人物である。道三はこの美濃は戦国時代においては重要な地域で、その支配は周辺地域への影響力を高める手段となった。道三は、美濃支配を目指し、他の戦国大名や勢力との争いを通じてその地域を拡大しようとした。最終的には長男義龍との確執により長良川の戦いがおこり、そこで討死した。

★2

岐阜の街は中心に長良川が流れているのが特徴である。岐阜城の麓にある湊や鏡島湊など長良川水運を十分に利用できたと考えられる。長良川水運は古代から様々な物資の輸送に活用された。例えば、1300年以上の歴史をもつ美濃和紙や薪や炭などは長良川水運によって運ばれた。また、下流は伊勢湾までつながっており、そこから京都や大坂さらには東国の地域にも運ばれた。すなわち岐阜は河川交通の要地でもあったことがわかる。

★3

江戸時代には五街道の一つである「中山道」が整備され、京都と江戸を結ぶ幹線道路として機能した。そして、関ヶ原からは、北にむかって「北国街道」が近江の木ノ本宿に伸びそこで近江北国街道とつながっている。関ヶ原の戦いでは多くの西軍諸将の敗走路となった。南にむかって「伊勢西街道」がはしり、牧田川の西岸にそって伸び、桑名宿で東海道とつながっている。関ヶ原の戦いでは島津義弘が敵中突破による前進退却という形をとった「島津の退き口」に使用した道であった。「美濃路」は、垂井から大垣を通して熱田に通じている。つまり、「美濃路」は、岐阜と名古屋を結ぶ岐阜街道に合流している。そして、尾張に出れば「東海道」が江戸からあり、岐阜は陸上交通の面でも要地であったと考えられる。

【岐阜が戦略的要地であった理由】

「美濃を制すものは天下を制す」ということばがあるが、なぜこのようなことがいわれたのか。その理由を考えると、岐阜は河川交通と陸上交通の結節点であるといえるからである。

河川交通としては、長良川・木曽川が流れており、美濃国の中心である加納や岐阜城の城下町へ上流から物資が集まってくる。長良川であれば例えば美濃和紙や薪や炭そして、木材が上流から運ばれ岐阜に集まった。

また岐阜の南側にある木曽川では、木材などが運ばれてきた。それらの物資やそれに伴って様々な情報が岐阜に集まった。そして、その物資はまた河川を下り、伊勢湾から京都や大坂に運ばれたり、東国にも運ばれたりすることがあった。

陸上交通としては、江戸時代になり五街道が整備された中山道があり、東海道と並び江戸から京都を結ぶ重要な陸路であった。地図からわかるように、関ヶ原付近から脇街道として北国街道と伊勢街道が出ており、伊勢街道は桑名で東海道と合流する。このように、美濃は交通の要地であることがわかる。そこには多くの商人や旅行者が利用し、そこには多くのお金と情報が集まった。

このように、河川交通と陸上交通の交わる点である交通結節点として、岐阜は物資・情報が集まり経済的に大きく発展した。特に、斎藤道三や織田信長がその特徴にいち早く気づき、楽市・楽座などの経済政策を実施した。特に織田信長は勢力拡大の足掛かりにしたといえるのではないかな。

【用語について】

井ノ口…織田信長が「岐阜」に改名する以前の地名。井戸（水源）の近くを示す地名に由来すると考えられる。

五街道…江戸日本橋を起点とする幹線道路。東海道・中山道・日光道中・奥州道中・甲州道中の五つ。

脇街道…五街道などの本街道に対し、それ以外の脇路の呼称。伊勢参宮のための伊勢街道や中山道関ヶ原宿から福井へと至る北国街道などがある。

【利用の例】

○日本史探究では、織豊政権の特に織田信長を扱う分野で活用できる。

・織田信長の天下統一の過程で岐阜を重視した理由を考察できる。その後の安土城築城の理由にも参考になる。

○総合的な探究の時間では、地域探究で活用できる。

【参考文献】

『定本 長良川 母なる川 その悠久の歴史と文化』 丸山 幸太郎 他編 郷土出版社 2002 年発行

『地図で読む岐阜―飛山濃水の風土』 伊藤 安男 編 古今書院 1999 年発行

『名古屋・岐阜と中山道』 松田 之利 編 吉川弘文館 2004 年発行